

## 報告書

### インフォーマルミーティング

男女共同参画委員会企画「育児世代研究者の現状と課題、あれこれ情報交換会」

平成 26 年度に発足した本学会男女共同参画委員会の活動の一環として、年会時にインフォーマルミーティングを行い、学会員間で男女共同参画に関する話題の情報交換を行うことになりました。今回が初めての開催で、テーマを育児世代研究者の現状と課題とし、約 20 名の参加がありました。

永津委員長の挨拶に続き、江尻委員の基調講演「アンケート結果に見る育児世代の現状と課題」が発表され、その後自由討論を行いました。基調講演では、本学会も 2015 年に加入した男女共同参画学協会連絡会が 2007 年に行った第 2 回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（大規模アンケート調査）の解析結果と、2012 年に行った第 3 回大規模アンケート調査の解析結果から、育児世代研究者に係る様々なデータが紹介されました。役職が上がるにつれ女性研究者比率が減少する「ガラスの天井／漏れやすいパイプ」、男性研究者の配偶者の半数以上が専業主婦であるのに対し、女性研究者の配偶者の 6 割は研究者であること、1 週間の在職場時間と自宅仕事時間の相関を見ると、両者の和の総仕事時間が一定になる傾向があるが、男性は 67 時間であるのに比べ、女性は 58 時間にとどまり、子供のある女性研究者の自宅仕事時間が長く、家事育児介護の時間を加えると総時間数が同じになる傾向があることなどが示されました。

自由討論では、原子力機構や九州大学での女性研究者数を増やすための取り組みや、女性研究者の配偶者が研究者であるために起こる dual carrier 問題（別居など）を解消するために配偶者のポストを支援する北海道大学での取り組みなどが紹介されました。理系の女子学生も少ない現状を鑑みると、社会の意識改革が必要ですが、まずは、女性が活躍していることを親世代にも広く知ってもらうために学会のホームページに研究者の育児体験談などを載せるといった提案や、学会が魅力的に見えるような制度を整備する必要性などを議論しました。（世話人・村上泉）



